

開催日及び場所		平成25年12月5日(木)	横浜植物防疫所会議室	
委員		吉武 雅子(大学講師) 畑中 隆爾(弁護士) 中川 隆(公認会計士)		
審議対象期間		平成25年7月1日～平成25年9月30日		
審議対象案件		12件 うち、1者応札案件2件 契約の相手方が公益社団法人等の案件1件		
抽出案件		6件 うち、1者応札案件 1件 (抽出率50%) (抽出率50%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件1件 (抽出率100%)		
抽出案件内訳	工事	一般競争	1件 うち、1者応札案件0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件	
		指名競争	公募型指名競争	—
			工事希望型競争	—
			その他の指名競争	—
	随意契約	—		
	業務	一般競争	—	
		指名競争	公募型競争	—
			簡易公募型競争	—
			その他の指名競争	—
		随意契約	公募型プロポーザル	—
			簡易公募型プロポーザル	—
			標準型プロポーザル	—
	その他の随意契約		—	
	物品・役務等	一般競争	10件 うち、1者応札案件2件 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件	
		指名競争	—	
随意契約(企画競争・公募)		—		
随意契約(その他)		1件 うち、契約の相手方が公益社団法人等の案件1件		
(特記事項) 特になし				
委員からの意見・質問、それに対する回答等		意見・質問	回答等	
		『韓国から我が国に入国する車輛等の消毒作業(博多港)』 ・なぜ落札率が低いのか。 ・落札率が極端に低い場合、業者を呼んでヒアリングをしないのか。 ・業者が手抜きせずに作業を行っているか、消毒のクオリティは満たしているかのチェックはしているのか。 ・動物検疫所として統一的に予定価格の積算単価を設定することはできないのか。	・新規参入を促すため初期投資に係る経費を含めているが、落札率の低い業者は既に設備が導入されているため、結果として落札率が低くなっている。 ・予定価格が1千万円を超える工事・役務はヒアリングを実施することになっており、それ以下の予定価格は対象になっていない。 ・業者が作業している際、家畜防疫官が消毒している状況を確認することができる。また消耗品についても傷んでいないかの確認も、不定期ではあるが防疫官自ら行っている。 ・予定価格の作成については会計法等に定めがあり、契約担当官毎に作成することになっている。どちらも支所の分任支出負担行為担当官が作成しており、現行法令では各会計機関に統一的に額を示すのは不相当と考える。ただし、ご指摘のように支所毎の落札率に大きな違いがあるのは一般的に奇異に感じられると思うので、業者のHPを参照する等積算方法について各支所で検討させたい。	
		『韓国から我が国に入国する車輛等の消毒作業(下関港)』 ・前回は4者だったが今回は3者であった理由は何か。	・前回、新規参入者が説明参考の書類を取りに来て実際に下関まで見に行ったが、業者が「これは対応できない」と辞退された。	
		『平成25年度動物検疫所における作業環境測定業務料』 ・磯子にある動検の各部屋の測定か。	・本所の事務室を除くいわゆる検査室で、指定されている薬品の残留値を計測している。	
		『動物検疫支援システムに係る運用支援業務等一式』 ・過去に比較対象なしとなっているが、これは今回初めてできたシステムか。 ・参考見積りはどうやったのか。 ・今回は3月までの半年契約にしているが、来年度は1年契約になるのか。	・今年9月に各省共通のNACCS(輸出入・港湾関連情報処理サービス)に、従来動検が独自に持っていたANIPAS(動物検疫検査手続電算処理システム)を統合した。統合後、運用支援を行うための業務として当該案件は新規の業務サービスという位置づけをしている。 ・第三者の業者と契約して見積りを依頼した。 ・そのとおり。なお、半年でこれだけの額になるため、26年度は政府調達の手続となるので準備しているところ。	
		『消毒噴霧作業(境港)』 ・境港には主にどのようなものが来るのか。	・月4回程度の定期船にオンシャーシーコンテナが1隻当たり10台程度。その他に乗用車や旅客も見込まれる。	
『アナプラズマ病診断用補体結合反応抗原購入』 ・これまでの価格の推移を見ると価格が大きく変動しているが要因は何か。	・発注量の違いである。買っているところが動検くらいであるため、業者は発注に応じて薬品を作っている。近年は使用量が減少しているため、単価が上がっている。			
委員会による意見の具申又は勧告の内容 [これらに対し所長が講じた措置]		特になし		